

# いちじくの木の下のナタナエル

ヨハネ 1 : 43 - 51



司祭 ヨハネ 井田 泉

2015年1月18日

顕現後第2主日

大阪聖アンデレ教会にて

ナタナエルという人がいました。ガリラヤのカナ出身の人です。カナは、イエスさまの故郷ナザレから北へ直線距離にして6 kmくらいのところです。

ナタナエルはある日、友人のフィリポから声をかけられました。フィリポは何か興奮しているようで、こう言ったのです。

「わたしたちは、モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方に出会った。それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ。」

ヨハネ 1:45

「モーセが律法に記し、預言者たちも書いている方」とは、聖書全体がその到来を予告している救い主のことです。フィリポは「わたしたちは出会った」と言うのですが、「わたしたち」とは、フィリポとシモン・ペテロとアンデレのことだとわかりました。しかしナタナエルは容易に信じることはできません。

「それはナザレの人で、ヨセフの子イエスだ」とフィリポは言いますが、このことからして受け入れがたいのです。自分の町カナの南隣のナザレから、そんな特別な者が出ようとは思えません。「ヨセフの息子イエス」というのは聞いたことがあります。ヨセフは早くに亡くなったはずです。

「ナザレから何か良いものが出るだろうか」

カナもナザレもガリラヤの小さな田舎町で、聖書——律法と預言者——にも出てこない。そんなナザレのヨセフの息子が救い主であろうはずがない。フィリポは怪しいものにだまされているのではないか。

しかしフィリポはナタナエルに強く言います。

## 「来て、見なさい」

フィリポが強引に連れて行こうとするので、ナタナエルは仕方なしに従いました。これほど友人フィリポを<sup>とりこ</sup>虜にしたイエスとはいったい何者なのか、興味は湧きます。道を行きながらナタナエルは「自分はだまされないぞ」とか、「まあ会って確かめてやろう」とか、「それなりに敬意を払ってあいさつはしたほうがいいか」などと、いろいろ考えたかもしれません。

いよいよそのイエスに近づいて出会おうとしたとき、いきなりイエスが言いました。

「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い。」

### ヨハネ 1:47

イエスがこの自分のことをこう言ったのです。ナタナエルは非常に驚きました。

「どうしてわたしを知っておられるのですか」

「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」(1:48) とイエスは言われました。

イエスが自分の何を知っているというのでしょうか。イエスは自分の何を見たというのでしょうか。

「わたしは、あなたがフィリポから話しかけられる前に、いちじくの木の下にいるのを見た」

フィリポから声をかけられる前に、イエスはナタナエルを見ていたということです。いちじくの木の下にいる自分を。

ガリラヤで、また広くイスラエルで、いちじくの木は珍しい木ではありません。人々はしばしばいちじくの木の下で憩い、

ひとり物を思ったり、人と語り合ったりします。しかしここでイエスが見たと言われたのは、いちじくの木の下で何をしていたナタナエルなのでしょうか。

それはいちじくの木の下で、祈っていたナタナエルではないのでしょうか。苦しんで、神と格闘していたナタナエルを、イエスはご覧になったに違いありません。

イエスがナタナエルを見るなり言われた言葉――

**「見なさい。まことのイスラエル人だ。この人には偽りが無い」**

「イスラエル」という言葉には、古くから伝えられてきた意味があります。それは「神と闘う者」「神と格闘する者」という意味です。

はるかに遠い昔、ヤコブという先祖がいました。旧約聖書・創世記に出て来る人物です。ヤコブは双子の兄であるエサウの怒りと憎しみを買い、遠く逃れて伯父さんのところに身を寄せて、それから 20 年ぶりに故郷に帰って来ました。しかし兄エサウに会うのが恐ろしかった。ヤボク川という川の渡しに来て、荷物と家畜と、そして僕たちと家族を全部向こう岸に渡してしまっただけで、ヤコブだけが後に残りました。川を渡ってしまえば、もしものときエサウから逃げられない、と思ったのです。恐怖と葛藤に苦しんで、ヤコブはひとり徹夜で祈りました。

そのとき、何者かが現れて、夜遠しヤコブと格闘しました。夜が明けようとするとき、その何者かが言いました。読んでみましょう。

「『もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから』とその人は言ったが、ヤコブは答えた。『いいえ、祝福してくださるまでは話しません。』『お前の名は何というのか』とその人が尋ね、『ヤコブです』と答えると、その人は言った。『お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。』」創世記 32:27-29

お前は神と人と闘って勝った。だからあなたの名はイスラエル。神と格闘する者。イスラエルの「エル」は神の意味です。

ナタナエルはイエスから「この人には偽りが無い」と言われました。真実の人だと言われたのです。そのとおりかもしれませんが。しかしひょっとしたら、彼は人に対してはいつも完全に真実というわけではなかったかもしれません。しかし、彼が苦しんで、もがいて、神を求めて神と格闘しているその真実を、イエスをご覧になりました。それをイエスは尊いものとご覧になったのです。

イエスはわたしたちをご覧になります。イエスはわたしたちのうちにナタナエルを探されます。わたしたちはどこにいるのか。物理的ないちじくの木ではなくとも、苦しんで、もがいて、神を求め、あるいは神と格闘しているなら、イエスはわたしたちのうちに真実を見て、それを尊いものとご覧になるのです。

ナタナエルは自分がイエスに知られ、イエスに愛され、イエスに招かれていると知りました。これまでの神との格闘の一切の答がイエスにあることを感じました。

「ナタナエルは答えた。『ラビ、あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。』」ヨハネ 1:49

ペテロよりも早いイエスへの信仰告白です。ここから新しいナタナエルの生涯が始まります。イエスに賭けた生涯、イエスを信じて歩む生涯です。

イエスは答えて言われました。

「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」1:50

ナタナエルは何を見ることになるのでしょうか。

彼がイエスと出会い、その弟子となってから三日目に、彼の故郷カナで結婚式があつて、イエスもその母マリアも、弟子たちも参加しました（ヨハネ 2:1-）。ナタナエルはイエスが自分に町に来られたことをうれしく思ったでしょう。

ナタナエルは、結婚式に集まった人々とともに、イエスの大きな祝福を経験しました。またそこで、イエスによって水から変えられた、このうえなくおいしいぶどう酒を飲みました。不思議な出来事でした。

ナタナエルが再び登場するのはそれからおよそ3年後です。

イエスの十字架の死と復活の後、他の弟子たちとともにナタナエルは故郷ガリラヤに帰りました。ある日の夕方、彼は他の6人の弟子たちとともに舟をガリラヤ湖に漕ぎ出し、夜通し漁をしました（ヨハネ 21:1-）。しかしその夜は1匹も獲れず、疲れ果

てて、明け方、舟に横たわっていました。陸から呼びかける声がします。

**「子たちよ、何か食べる物があるか」**

**「ありません」**

その声のとおり舟の右手に網を打つと、おびただしい魚がかかりました。

その方は、岸辺に朝の食事を用意していただきました。疲れ果てた弟子たちのために、魚とパンが準備されていました。

イエスを見捨てて逃げ去った弟子たち。「この人には偽りが無い」と言われたのに、いちばん大事な時に真実を貫けなかったナタナエルのためにも、イエスは朝の食事を用意していただきましたのです。

あのときイエスがナタナエルに言われた言葉がよみがえってきます。

**「いちじくの木の下にあなたがいるのを見たと言ったので、信じるのか。もっと偉大なことをあなたは見ることになる。」**

「もっと偉大なこと」。「もっと大きなこと」と訳したほうがいいのかもかもしれません。今、ナタナエルが見るのはそれです。あのときはまだ十分には知らなかったイエスの愛。あのときはまだよく知らなかったイエスの真心。イエスが用意して下さったこのパンと魚に、ナタナエルが知らなかった「もっと大きなこと」を見たのです。イエスのこの上なく深い慰めと力づけ。もっと大きなイエスの愛といのちが、ここに用意されていたの

でした。

ナタナエルがあのカナの結婚式で飲んだぶどう酒。ガリラヤ湖畔の朝にいただいたパン。それは、2000年前のガリラヤで終わったものではありません。イエスはわたしたちのために、最上のパンとぶどう酒をこの朝、この聖餐式のうちに用意してくださいました。

わたしたちのうちに神への求めを、魂の格闘を見ておられる主イエスは、わたしたちのために、わたしたちが知らなかった愛といのちを用意しておられます。それを、目に見えるパンとぶどう酒としていただくわたしたちには、さらに未来が用意されています。イエスのもっと大きな愛といのちを経験して、それを広げていく未来です。

祈ります。

主イエスさま、あなたはわたしたちをご覧になります。わたしたちが迷ったり疑ったり、また十分に真実でなかったとしても、あなたは、あなたを求めているわたしたちをご覧になり、苦しみもがくわたしたちを尊いものとしてくださいます。あなたがいちじくの木の下でナタナエルを見て、彼を引き寄せて弟子とされたように、わたしたちを引き寄せてあなたの弟子としてください。カナのぶどう酒の喜びを、ガリラヤ湖畔のパンと魚の祝福をわたしたちにもお与えください。あなたの愛のいのちによって、わたしたちを新たに生かしてください。尊い主のみ名を賛美します。アーメン